

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○学習指導の充実…「確かな学力の定着」への取り組み
目標（評価規準）	育てたい資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、確かな学力の向上につなげていく。	
重点に係る現状 設定理由	算数専科の授業を中心にすることで、児童主体の授業が増えてきている。さらに、児童に育てたい資質能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、確かな学力の向上につなげていく。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、9割の教員がA及びB評価を選択している。学校研究の柱に「資質・能力の育成」を明確に位置付けたこともあり、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を改善していこうとする意欲がより生まれてきている。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、基礎・基本充実の取組に関する設問においてA・Bの計が9割を越え、今年度は93％（A評定は59％）に達した。「確かな学力」の土台となる基礎・基本充実に関して、安定して高評価をいただけている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	研究推進委員会を中心に、全教職員が研究授業を行った。また、日常的に管理職が授業を参観し指導助言に努めてきた。今年度の学校研究のテーマは、「生き生きと学ぶ子～見とりを活かして育む資質・能力～」であったため、授業後の研究協議会も子どもが主語になる研究協議会になった。 学力調査の結果、国語の「読む」こと「言葉」の領域は算数の結果との相関が見られる。夏休みに行った結果分析の検討会では、読む力と語彙力は、算数をはじめとする各教科の学力を高めるのではないかとという仮説を立てた。 そのため2学期以降の朝学習の取り組みとして絵本の読み聞かせや視写を月・水・木と3回行い、読む力と語彙力の向上を目指している。また、語彙力の不足による友だち同士のトラブルも多いことから、普段の学習や指導の場面でも、教師が意識しながら教育活動を進めていくことの大事さを確認した。
学校関係者評価結果	概ね良好であることは、素晴らしい。特に語彙力の向上については、低学年では読書活動が難しいので、読み聞かせが有効な手立てになる。その中でも、読書アニメーションなど工夫して語彙力の向上を図ってほしい。また学習ができる子とできない子の差は大きいと思うが指導方法を工夫して頑張してほしい。
最終改善方策	今年度の学校研究の成果をふまえて、来年度も「確かな学力の定着」への取り組みを実施していきたい。そのためには、授業公開を通して教師の実力をつけていきたい。また、外部講師を招くなど、今年度とは違ったアプローチをしていくなかで教師の力量をさらに高めていく。今後も引き続き語彙力の向上のために、視写や読書、子どもの気持ちを聞き出すような児童指導を心掛けていく。

本年度の重点	2	○学年・学級経営の充実…「豊かな心の育成」への取り組み
目標（評価規準）	人とかかわりの中で、人権尊重の精神を涵養し、思いやりをもって他者と接することができる豊かな道徳性を養う。また、コミュニケーション能力の向上に努め、他者と協働する価値に気づかせる。	
重点に係る現状 設定理由	相手を思いやれる優しい児童が多い。人とかかわりの中で「自分の大切さとともに、相手の大切さを認められる」人権感覚や相手の立場や考え方を想像し理解しようとするような態度を養うことにより、さらに思いやりをもって他者と接することができる豊かな心の育成を図る。また、教育活動全体を通してコミュニケーション能力の向上に努め、他者と協働することの価値に気づかせる。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、A評価及びB評価が大半を占めた。「子どものことを理解し、適切な指導をしている」の項目でA評価が38%、B評価が56%であった。教職員自身が自信をもってA評価をつけられるようになってほしい。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、児童指導の設問においてA・Bの計が9割を越え、今年度は90%（A評定は59%）に達した。また、各学級の児童の様子に関して「ルールを守り協力している」96%（A評定は44%）「楽しそうに登校している」が97%（A評定は63%）という結果だった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	「チーム名向 児童が主役 全ての教職員・関係者が全ての児童の担任である」を合言葉に「豊かな心の育成」への取り組みを行った。人とかかわりの中で「自分の大切さとともに、相手の大切さを認められる」人権感覚や相手の立場や考え方を想像し理解しようとする子に育つように教育活動を行った。今年度はすべての学年で、写真家の内堀隆さんのお話を聞くなど、人権意識が高まるような授業を行った。 また、職員会議において児童指導委員会から、各クラスの問題行動や児童の様子について、情報交換を行い、組織的に対応するように努めている。また、突発的な出来事については、火・木に行われる「タうち」（打ち合わせ）でも行っている。今後も、学校内だけでなくSCや武山支援学校、ことばの教室、三浦市教育委員会とも連携し、学校だけでなく、関係機関とも協力して、よりよい対応を考えていきたい。
学校関係者評価結果	地域の行事に積極的に参加する児童が多くいる。登校の様子でも、高学年が責任をもって下学年の児童の面倒を見ている。児童が少なくなったが元気な声が多く聞かれることは地域にとってもうれしいことである。「チーム名向 児童が主役 全ての教職員・関係者が全ての児童の担任である」を合言葉は素晴らしいので、今後も続けてほしい。
最終改善方策	来年度も小規模校の良さを生かして、全教職員で子どもたちを育てるという意識を大切にしていく。また、情報共有を十分に行うことで組織的な対応ができるようにしていく。また、SCやSSW、近隣の学校、教育委員会、支援学校などの他機関とも連携することで教育的効果を上げていく。また、いじめの未然防止を意識し、人権感覚を大切にしたい児童指導を充実させる。

本年度の重点	3	○地域・家庭・学校との連携…「地域教育力の活用」への取り組み
目標（評価規準）	児童が主体的・探究的・協働的に課題解決に取り組む地域素材を生かした教育活動を積極的に推進し、より良く課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。	
重点に係る現状 設定理由	栽培活動や海洋教育において、地域の環境資源を生かした豊かな教育活動が展開されている。今年度は、豊かな体験活動で終わるのではなく、さらに児童が主体的・探究的・協働的に課題解決に取り組める教育活動を推進していく。また、学校の状況や本校の教育活動のねらいを積極的に情報提供し、家庭・地域・学校がともに連携して子どもたちを育む風土を醸成していく。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	A～Dの4段階で評定したアンケートで、多くの教員がA評価及びB評価を選択している。本校の特色ある教育活動が定着してきているので、さらに学びの質の向上を追求していきたい。教職員は保護者に寄り添いながら丁寧に関わり、信頼関係の構築に日々努めている様子が見られる。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、家庭との連絡・相談の設問においてA・Bの計が8割を越え、今年度は88％（A評定は56％）であった。また、海洋教育など学校の特色をいかした活動を問う設問では、100％（A評定は82％）という高い評価をいただいた。
自己評価結果 （見解と改善方策）	本校の特色である海洋教育や栽培活動については、地域や保護者の協力を得ながら充実した活動を行うことができた。諸磯藻場保全活動団体等の協力の下、釣り体験やタッチプール体験、磯観察を現地で実施できた事、また今年度もアオリイカの産卵床づくりを体験できた事は、さらに活動が広がり有意義だった。また、各真珠養殖体験に、多くの保護者が参加できた事も、体験活動の意義をご理解いただくうえで有効だった。これらの体験活動を探究的な学びとつなげられるようにさらに工夫していく。 運動会や学習発表会など子どもたちの成長を実感していただく場を提供できた事は、家庭・地域と連携を図るうえで効果的だった。
学校関係者評価結果	地域の特色を生かした教育については、今年度も成果を上げている。コロナ禍を経て、人間関係の繋がりが少なく希薄になっている。SNSの発達によりトラブルも多様化している。今後も、地域の教育財産を生かして教育活動を進めていってほしい。
最終改善方策	地域の教育的な資源を生かして、学校の特色を生かした生活科、総合的な学習の時間を作っていく。また、学校園などの体験学習も引き続き行っていく。また、引き続き学校へ行こう週間や行事を公開していくことで、地域の協力が得やすい、地域に愛される学校作りを目指していく。